

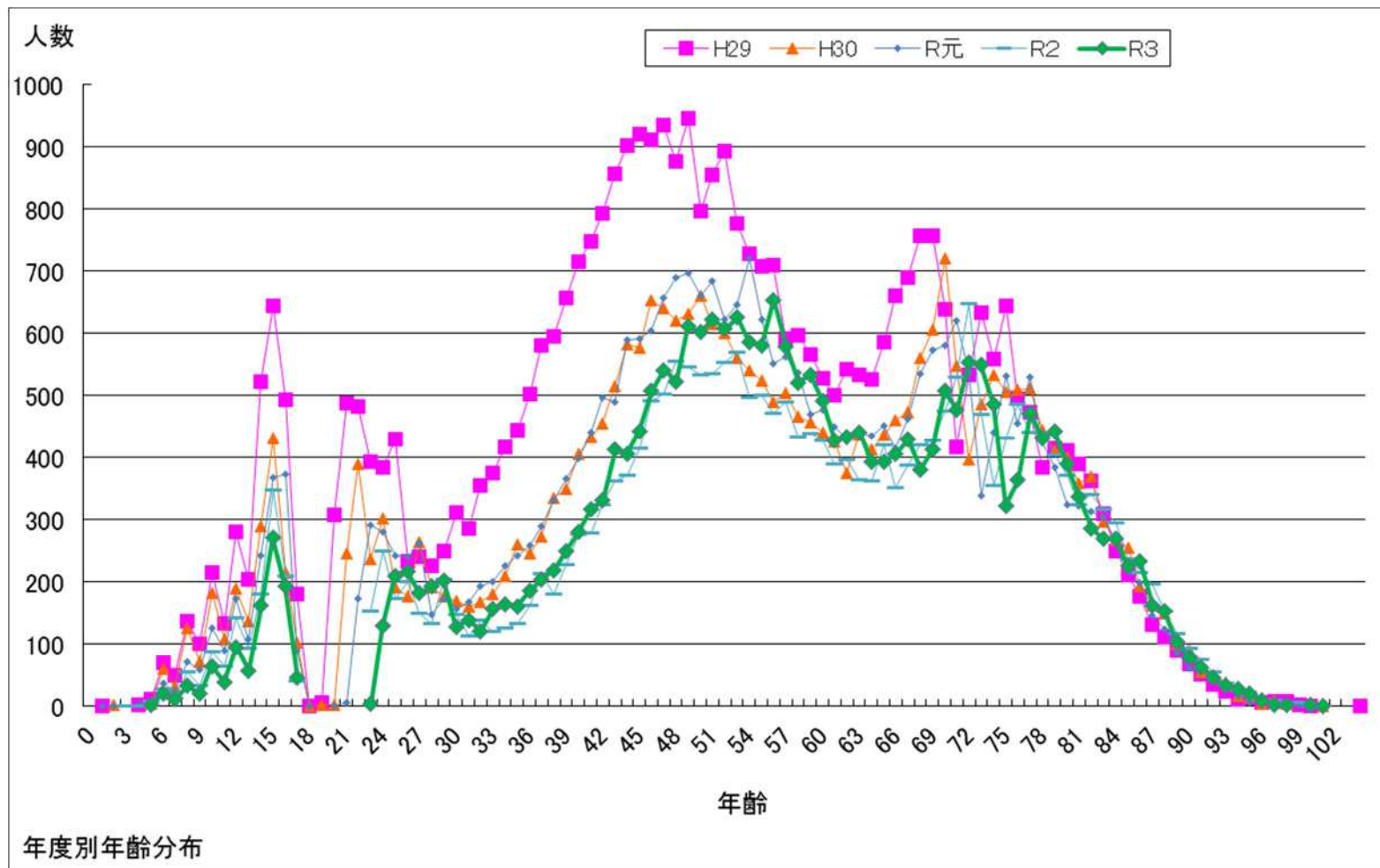
大気汚染医療費助成制度の患者データ年度推移

平成 29 年度から令和 3 年度の 5 年間の患者データについて、各項目別に年度毎の結果を比較した。

1 年齢分布

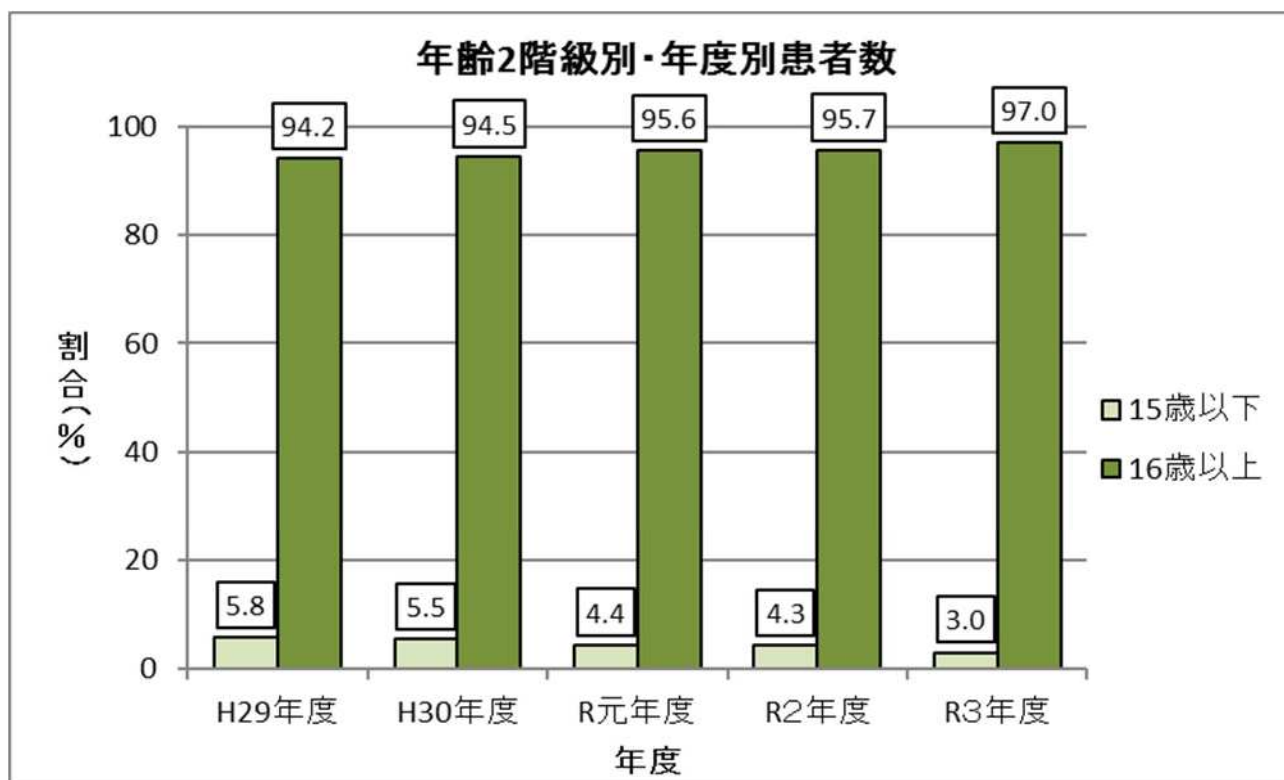
(1) 各年齢の年度別患者数

40～50 歳代の割合が高くなっている。



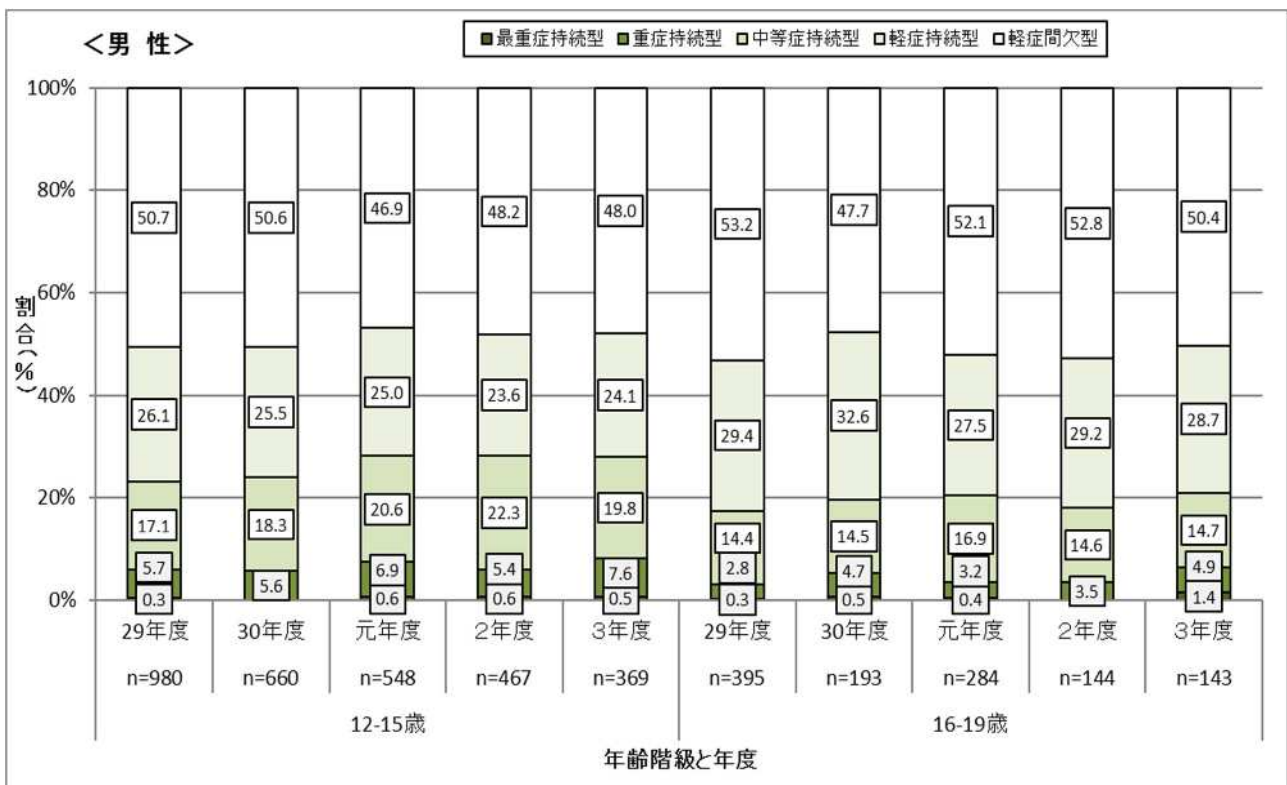
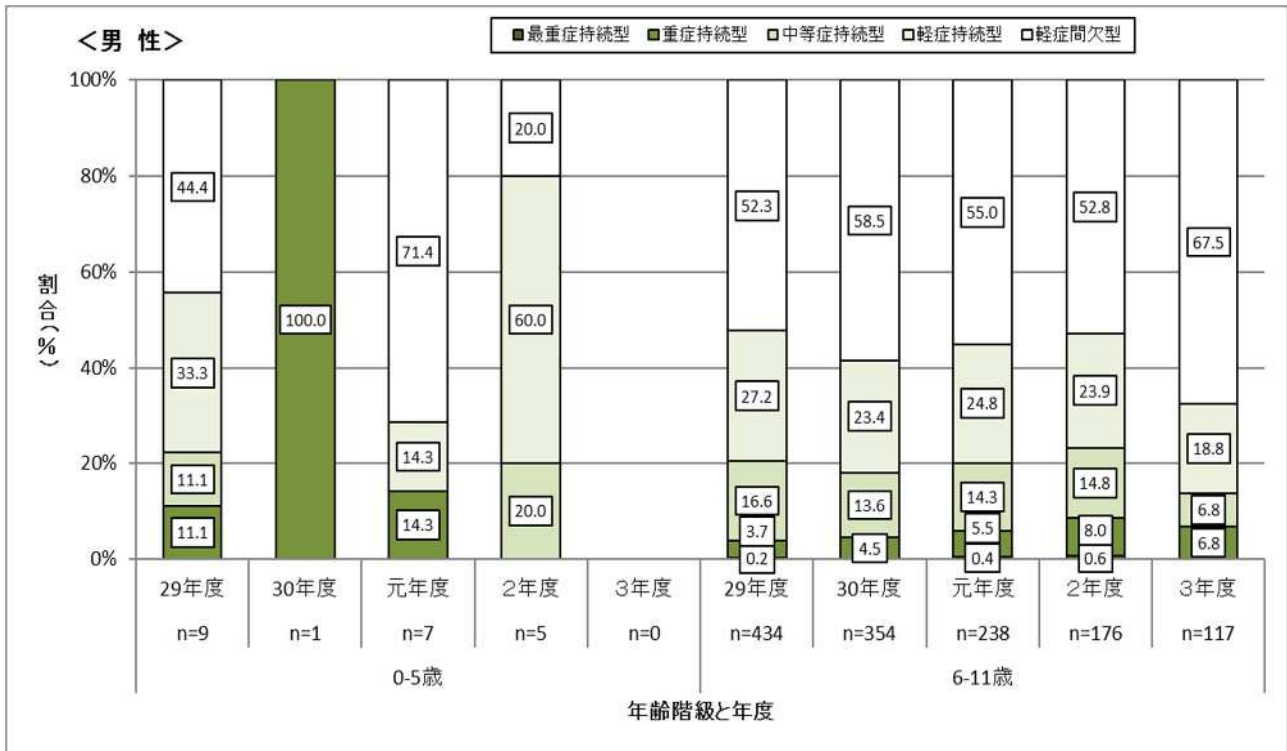
(2) 年度別の年齢階級別患者数割合

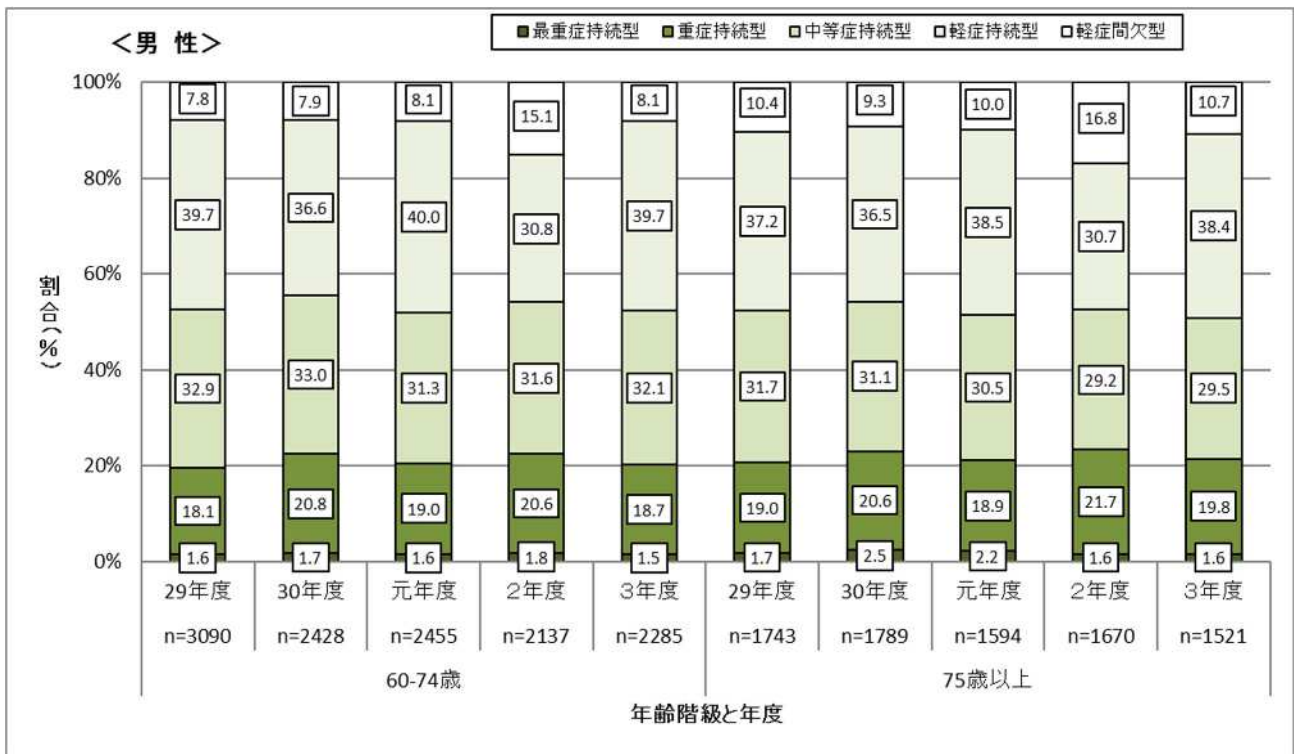
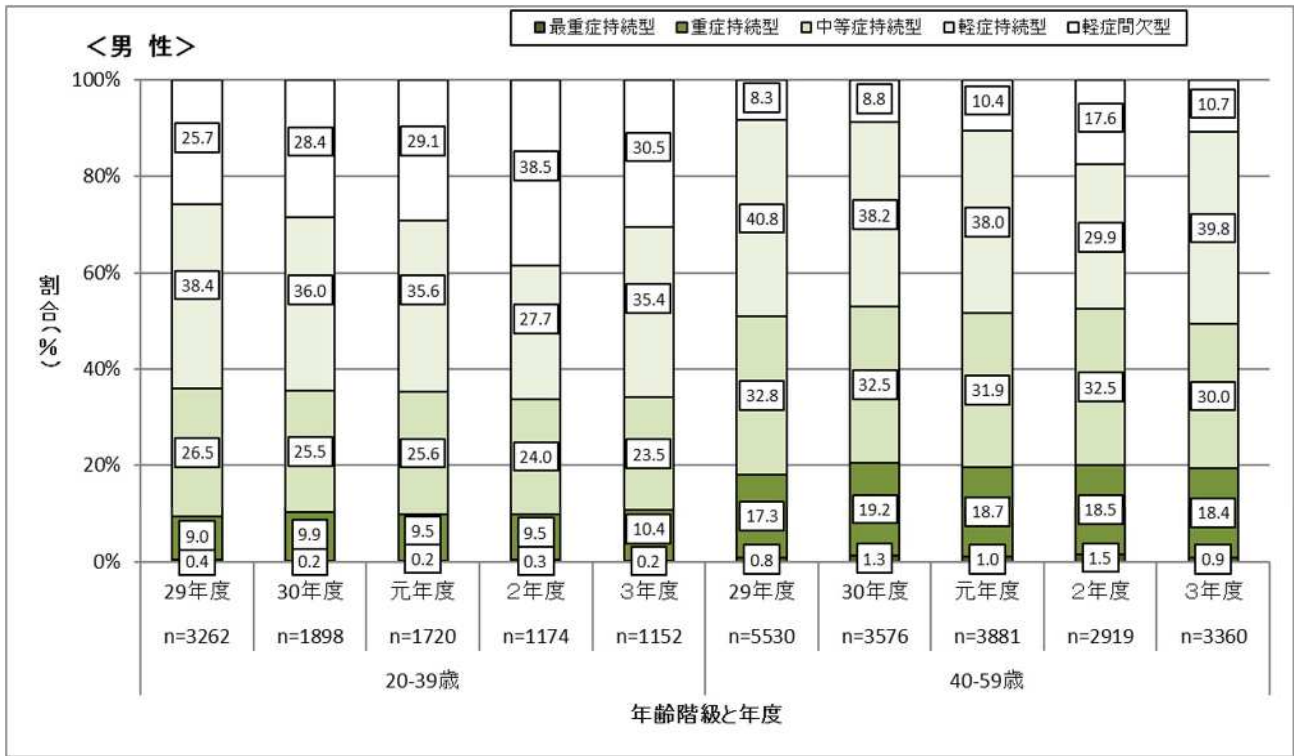
	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	患者数	割合	患者数	割合	患者数	割合	患者数	割合	患者数	割合
0-1歳	1	0.0%	0	0.0%	1	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2-5歳	14	0.0%	7	0.0%	11	0.0%	10	0.0%	2	0.0%
6-11歳	708	1.7%	580	1.9%	407	1.4%	284	1.1%	190	0.7%
12-15歳	1,650	4.0%	1,047	3.5%	891	3.0%	763	3.1%	587	2.3%
16-19歳	682	1.7%	321	1.1%	464	1.6%	250	1.0%	239	0.9%
20-39歳	7,962	19.5%	4,533	15.1%	4,253	14.3%	2,829	11.4%	2,869	11.2%
40-59歳	15,836	38.8%	10,936	36.5%	11,736	39.4%	9,147	36.9%	10,288	40.0%
60-74歳	8,868	21.7%	7,320	24.4%	7,187	24.1%	6,427	25.9%	6,788	26.4%
75歳以上	5,089	12.5%	5,226	17.4%	4,869	16.3%	5,112	20.6%	4,753	18.5%
総計	40,810		29,970		29,819		24,822		25,716	



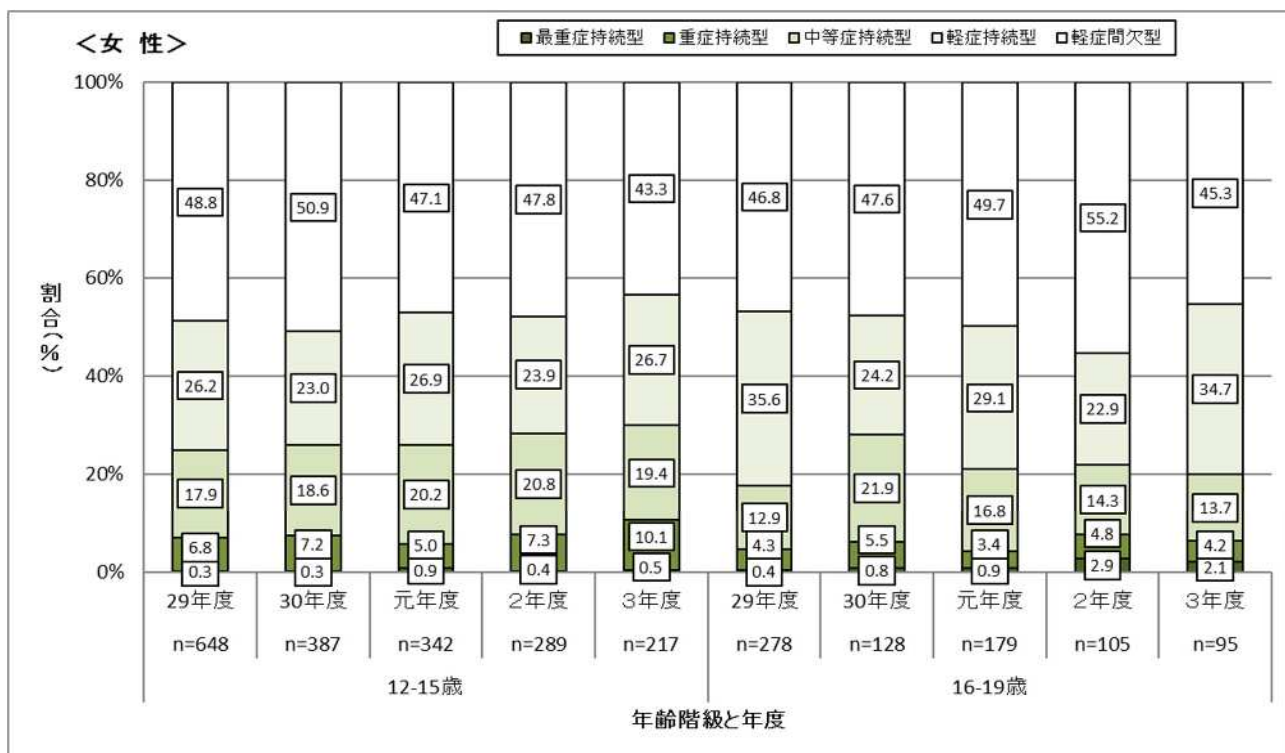
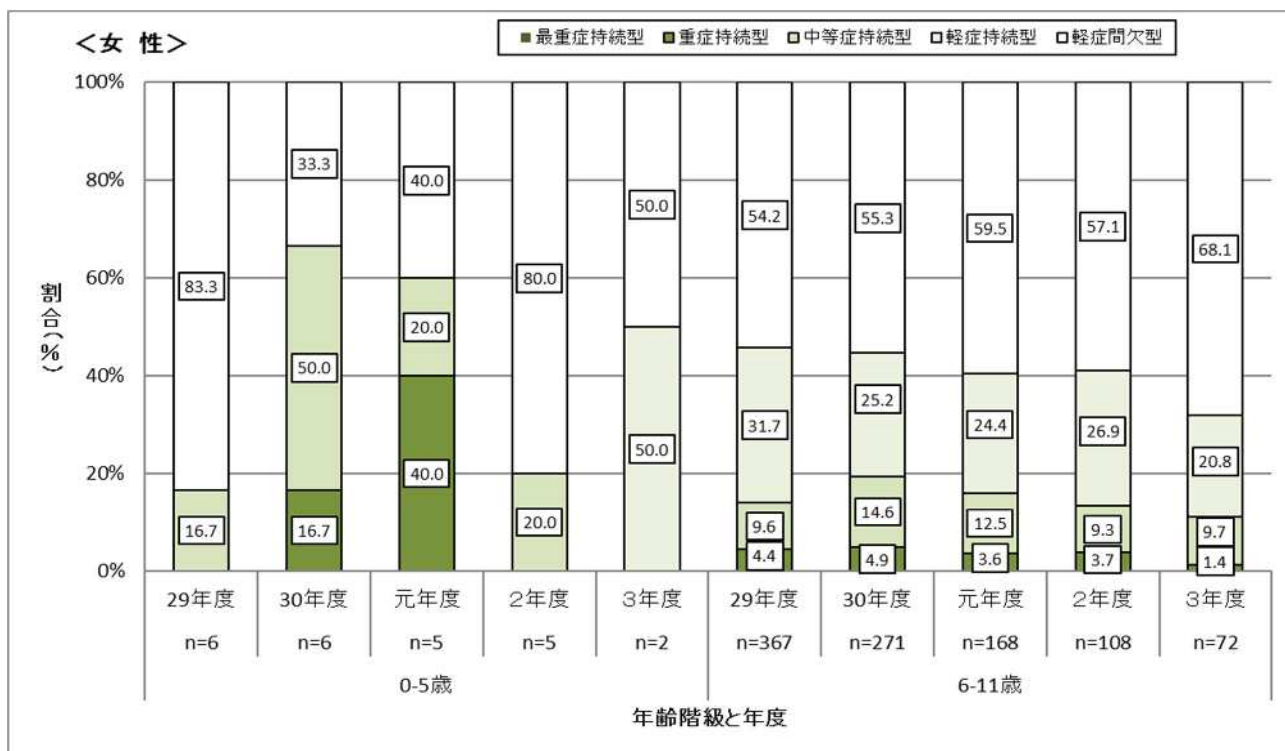
2 重症度分類

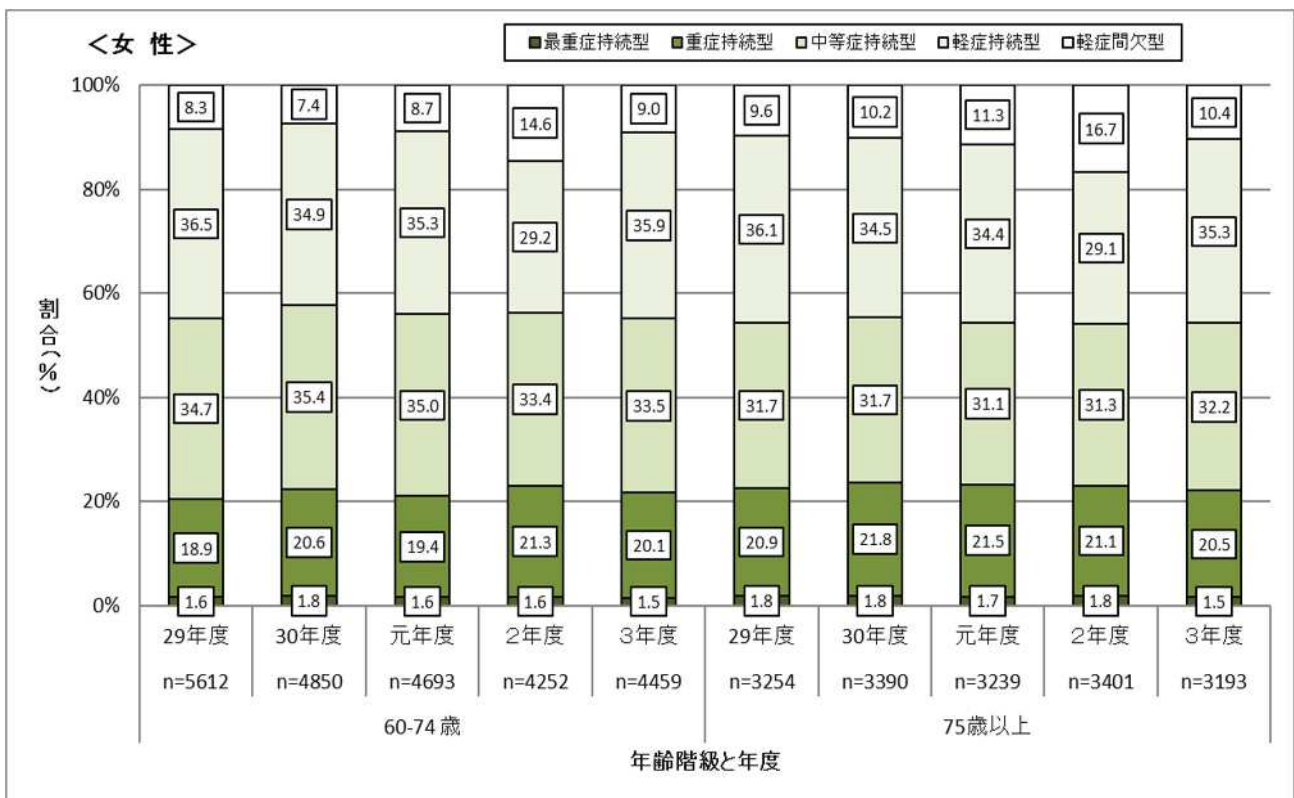
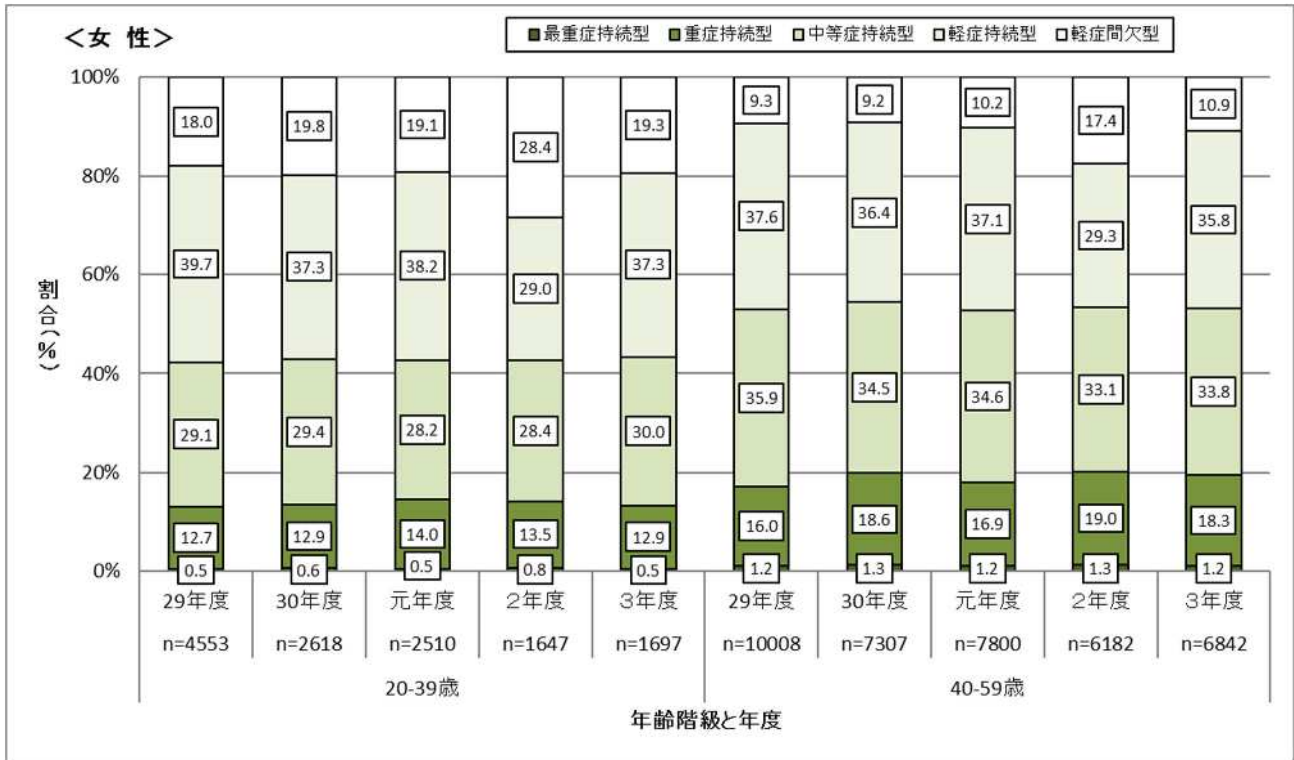
(1) 年齢階級別<男性>





(2) 年齢階級別<女性>





年度別年齢階級別の重症度分布について、H29年度以降、男女ともに大きな変化はなく推移している。(n数が少数の「0-5歳」の階層を除く)

3 喫煙

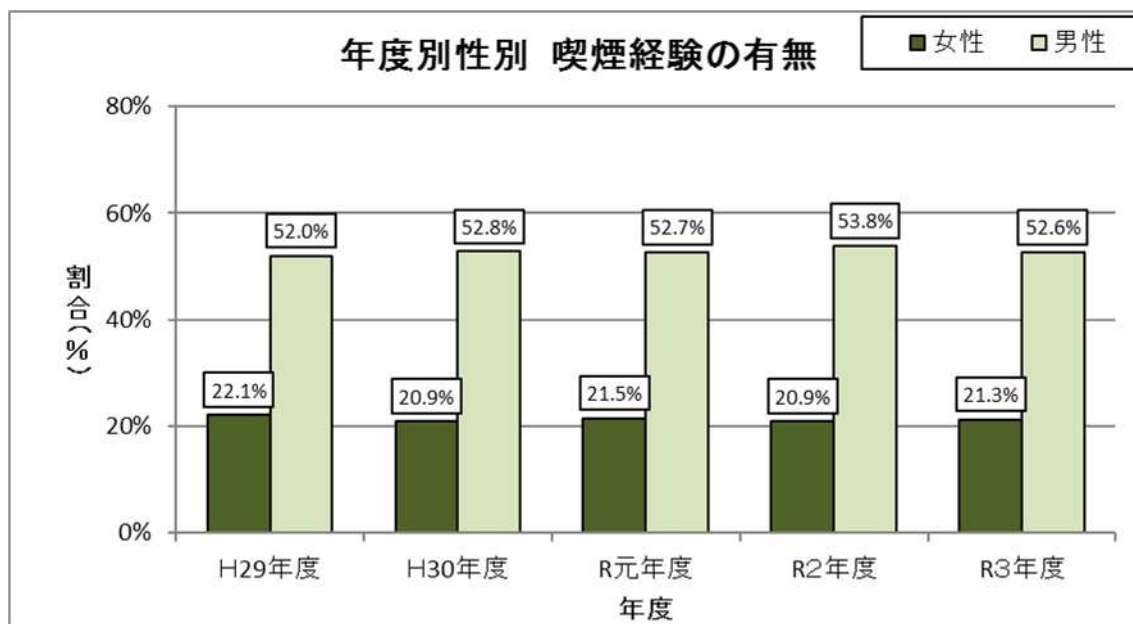
(1) 能動喫煙

a 全体

	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
喫煙経験あり	33.0%	31.9%	32.3%	32.0%	31.9%

全体の能動喫煙経験「あり」の割合は、ここ5年間でほぼ横ばい傾向にある。

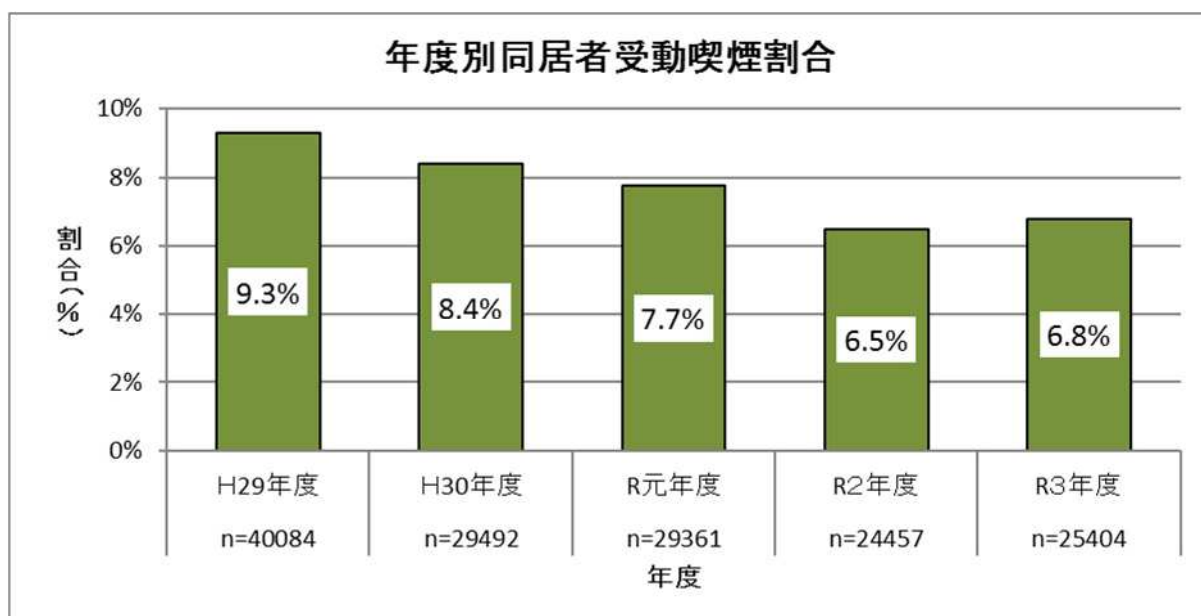
b 男女別



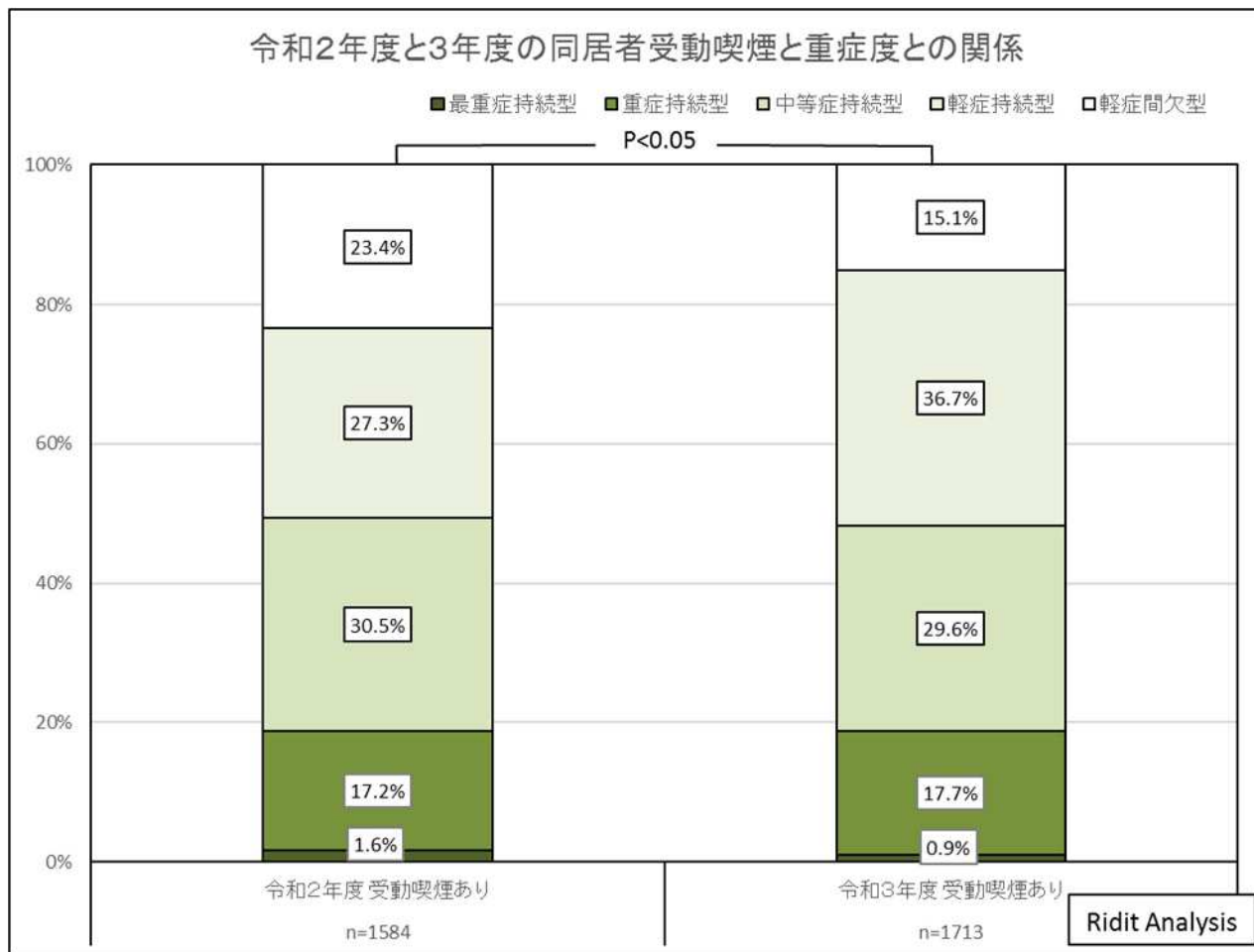
男女別で見た能動喫煙経験「あり」の割合は、男女ともにここ5年間でほぼ横ばい傾向にある。

(2) 受動喫煙

同居者の受動喫煙(主治医診療報告書より)

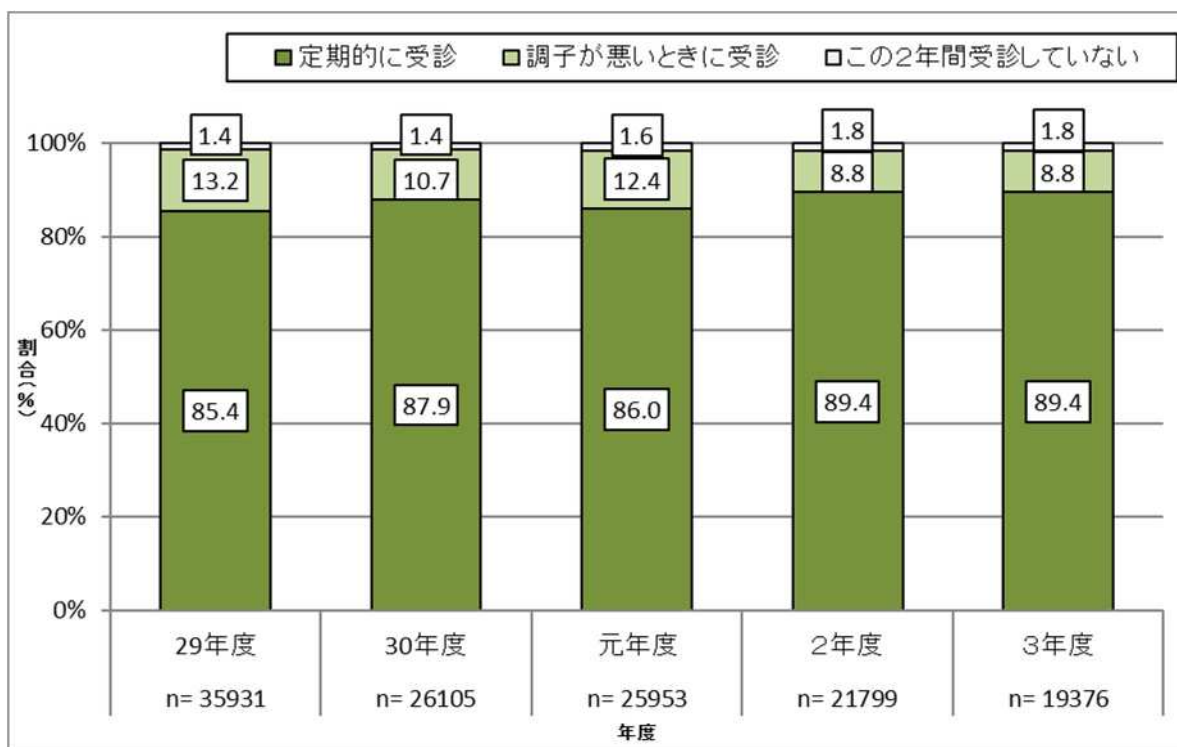


同居者受動喫煙割合は昨年度とほぼ同じであった。

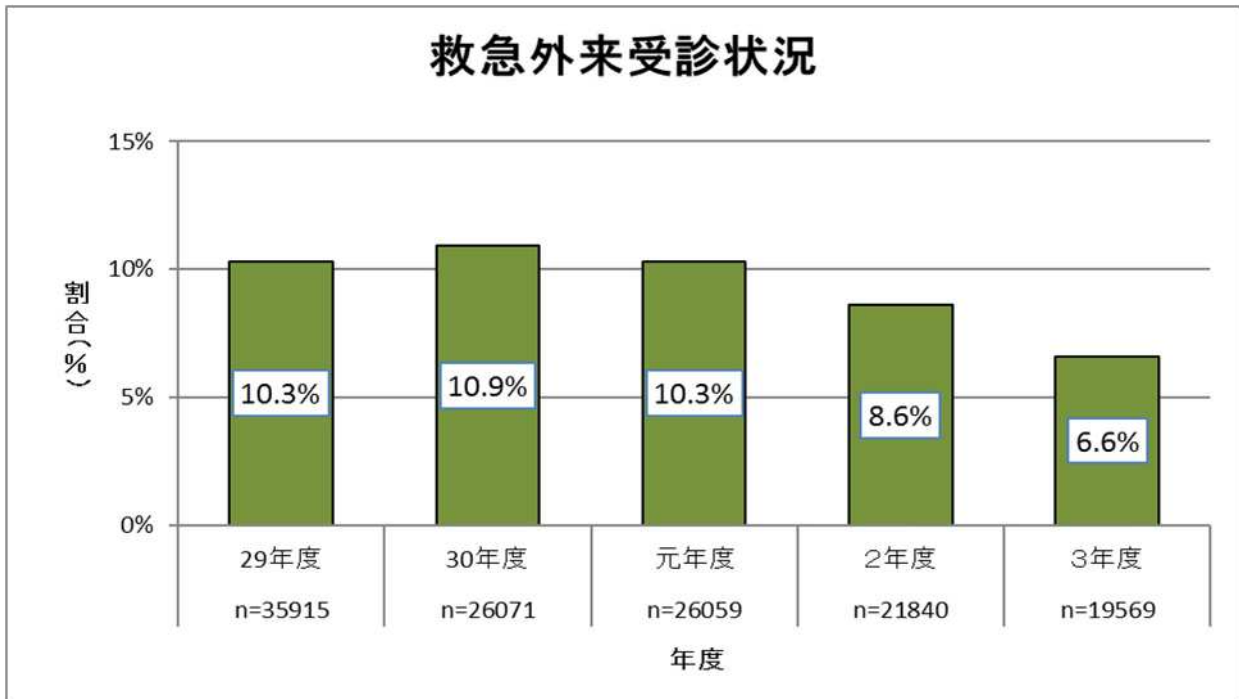


同居者の受動喫煙のある方について、令和2年度と3年度との重症度割合でリジット解析を行った結果、軽症の割合で有意な差が認められた。

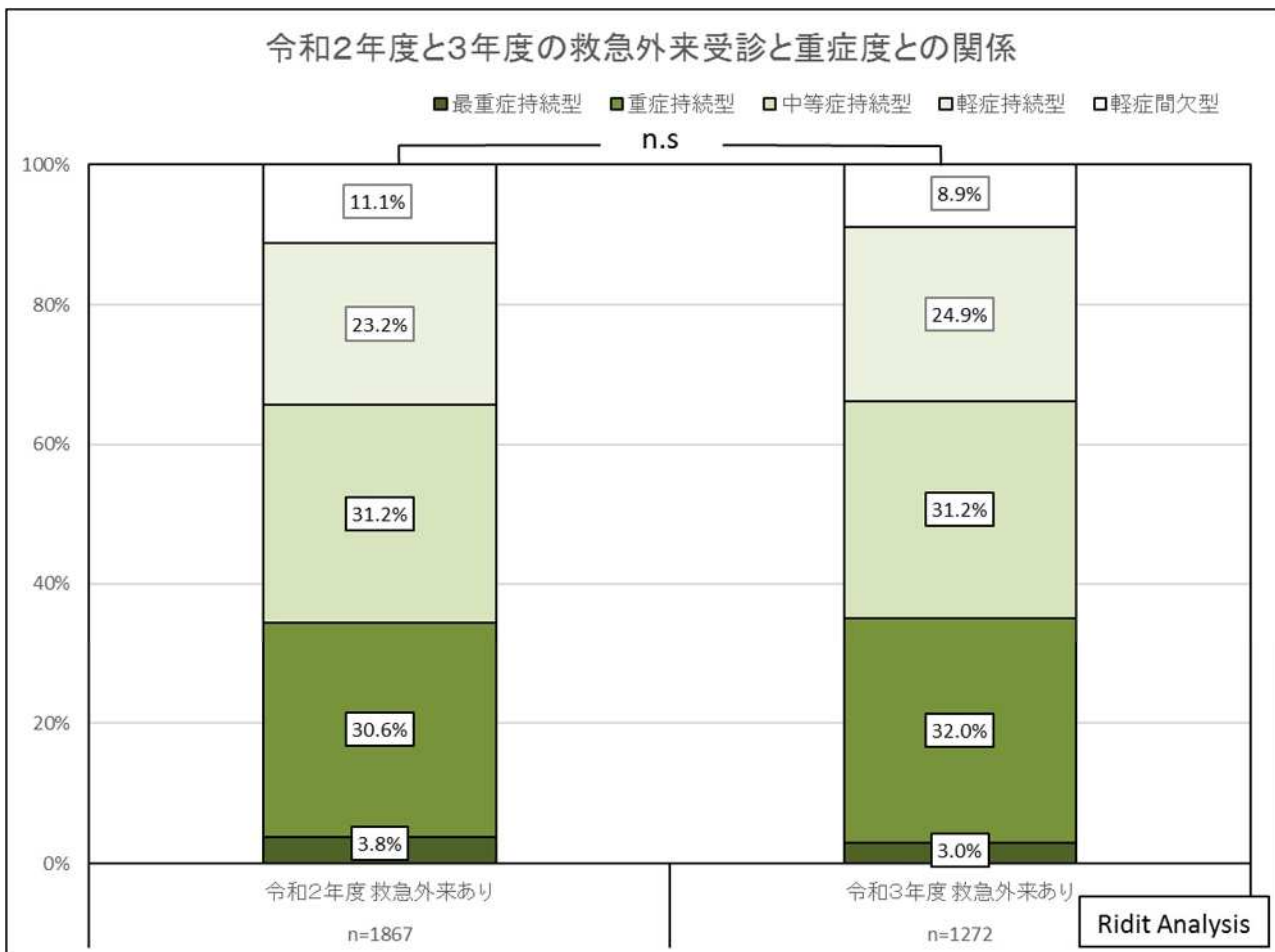
4 受診状況



5 救急外来受診状況

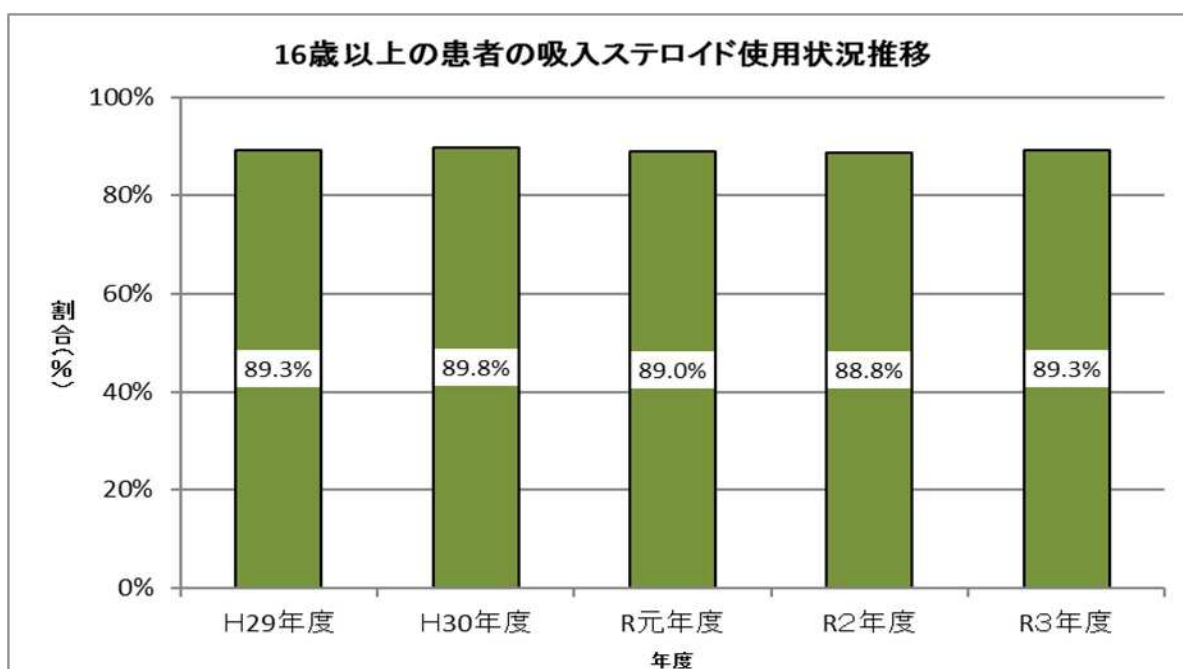
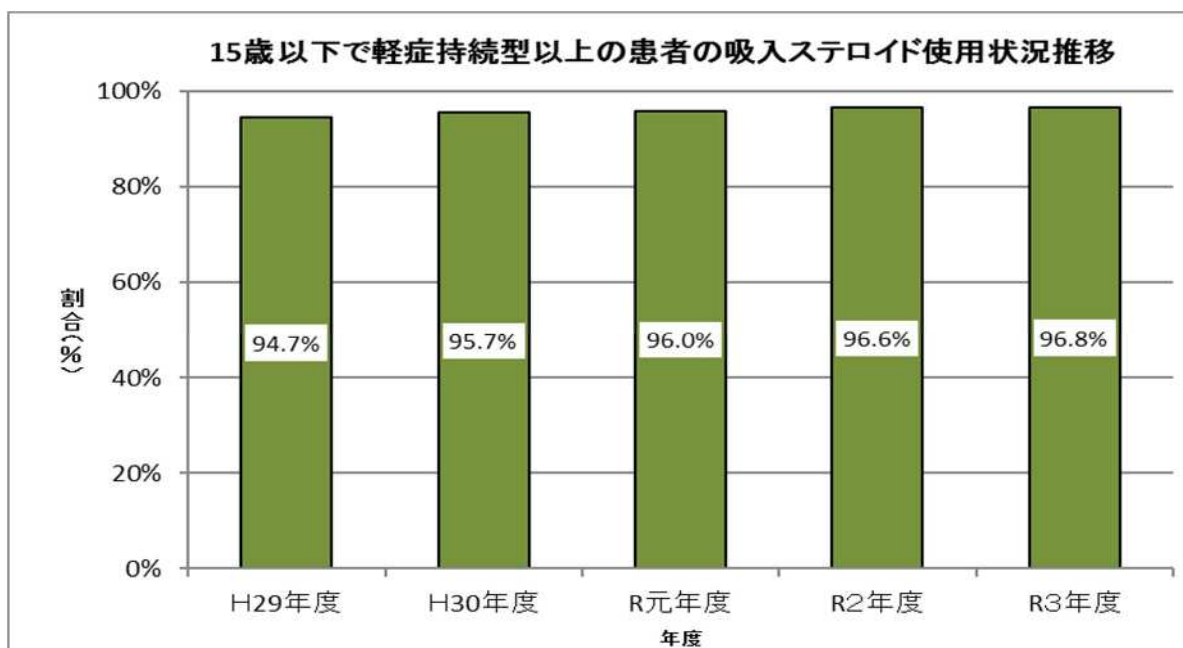


救急外来受診の割合は、平成30年度以降減少傾向にある。

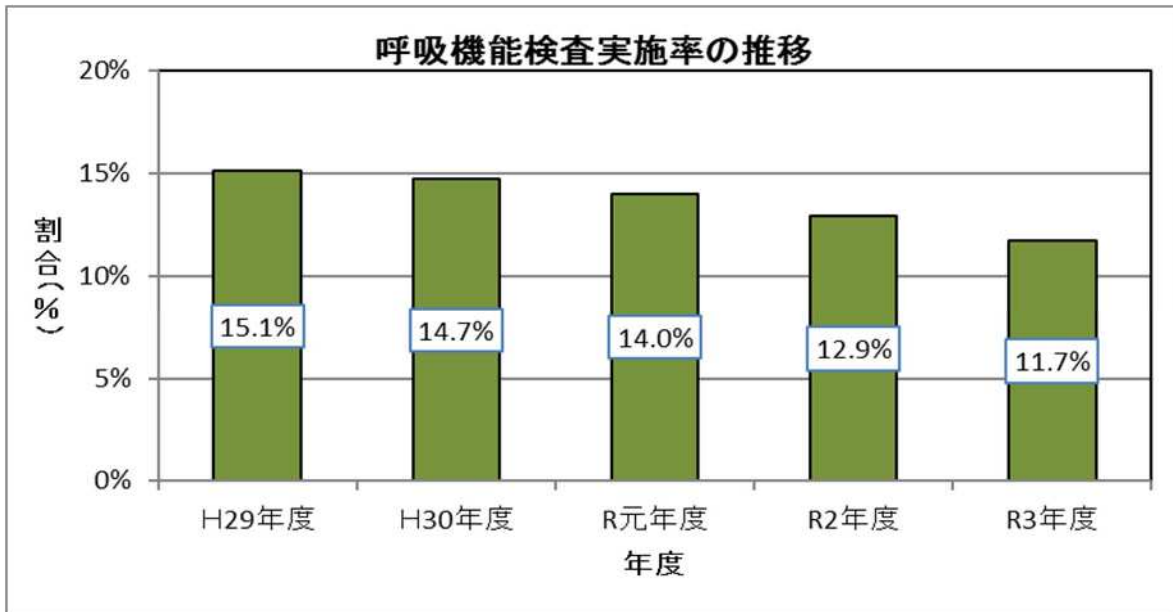


救急外来を受診した方について、令和2年度と3年度との重症度割合でリジット解析を行った結果、重症度での有意な差は認められなかった。

6. 治療薬（吸入ステロイド薬）



7. 呼吸機能検査実施率の推移



今後も喘息の状態を把握することの重要性を普及啓発する必要がある。